

平成27年度重点プロジェクト事業（海外派遣研究員旅費）報告

62th Annual Meeting of American College of Sports Medicine における研究発表

田屋敷 幸太*

はじめに

今回、平成27年5月26日～5月30日の日程で、アメリカ合衆国サンディエゴにて開催された62th Annual Meeting of American College of Sports Medicine (ACSM)に参加し、これまで私が行ってきた体幹筋の量的および機能的特性に関する研究発表を行う機会を頂いた。よって、学会大会の様子および私の発表内容についてここに報告する。



学会会場の外観

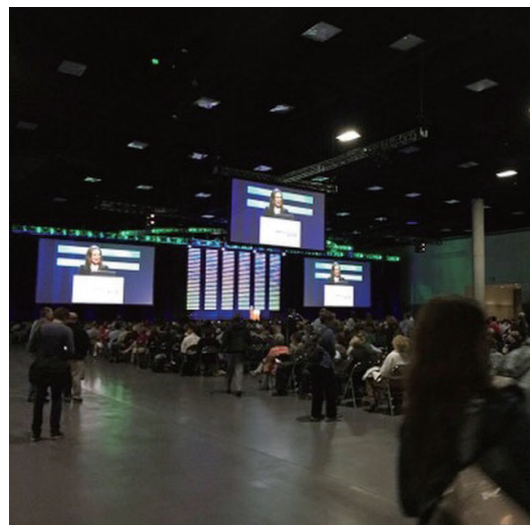
ACSM について

ACSMは体力・スポーツ医科学の専門分野における世界最大級の学術団体である。年の1度の学会大会には、世界中から体力・スポーツ医学領域の研究者が集まり、研究成果の発表および討論が盛んに行われている。私が参加した62回学会大会においても、参加者は5千名以上との報告もあり、スポーツ科学を研究領域とする研究者や学生をはじめ、運動指導および実践者等の参加者で非常に盛況であった。私は、今年度初めてACSMの学会大会に参加したが、他の国内および国外の学会と比較して、その規模の大きさに強い衝撃を受けた。サンディエゴという開催地の人気さもあるだろうが、ACSMという学術団体が体力・スポーツ医学領域で確固たる地位を築いていることを肌で感じた。

当学会において発表を行うためには、発表内容に関する事前審査を通過しなければならず、それを認められたことは私自身が英語習得に励んできた何よりの証拠であると感じている。

学会大会では、一般発表に加え著名な研究者の

レクチャーやシンポジウムなどの講演があり、朝から夕方まで様々な内容の発表が絶え間なく行われていた。あるテーマに対して専門家達が議論し合うセッションにおいては、様々な視点からの熱い議論が交わされていた。また研究者ではない一般参加者と思われる人々も多くみられ、会場の至る所で研究に対する討論が行われていた。

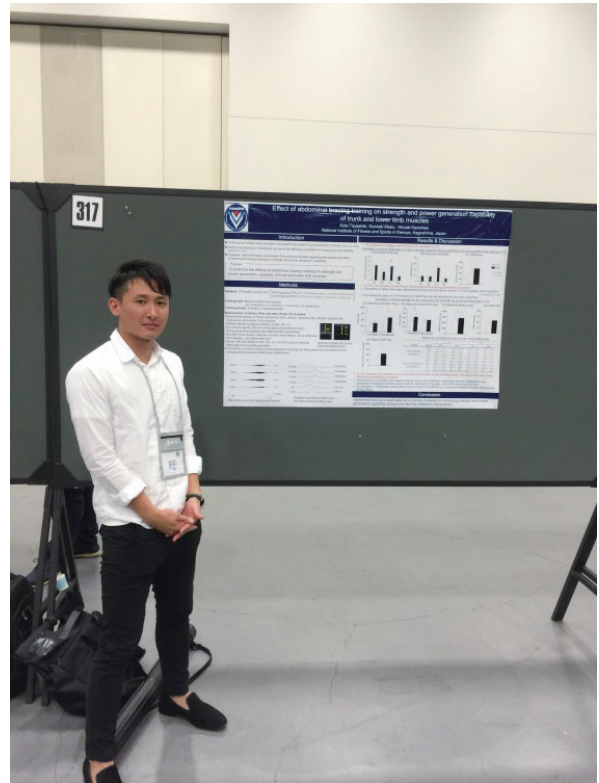


講演会場の様子

* 鹿屋体育大学 大学院体育学研究科 博士後期課程1年

研究発表について

今回、私は「Effect of abdominal training on strength and power generation capability of trunk and lower limb muscles」というタイトルで発表した。その内容は「体幹筋群の随意同時収縮（ブレイシング）が体幹および下肢の筋力・動作パフォーマンスに及ぼす影響」について、筋電図・腹腔内圧の変化から検討したものである。質問だけでなく、発表内容の写真を撮ってもいいかと尋ねられることが多く、今回の発表を通して、自身の研究内容の位置づけや研究データの有用性を再確認することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。今後、すみやかに本研究の内容を論文として発表したいと考えている。また今後、国際的に活躍する研究者を目指すうえでもっと英語力を向上させ、ACSMも含め世界中の研究者が集う国際学会に積極的に参加し、自分自身を成長させていきたいと思っている。



発表ポスターの前で

おわりに

この学会を通して多くのことを学び今後の研究活動にとって非常に有益な経験となったと思う。また、論文作成も含めてより一層努力していきたいと考えている。

最後に本学会大会への参加・発表にご理解とご支援いただいたことに、感謝の意を表します。